

恵比寿まちづくり戦略

Ebisu Future City Design

サッポロ不動産開発株式会社



恵比寿。ランドマークとともに歩むまち。

かつてあったエビスビールの醸造所にその名が由来する、恵比寿。

1994年、醸造所の跡地に恵比寿ガーデンプレイスが誕生し、

その知名度とブランド力は飛躍的に高まりました。

サッポロ不動産開発は創業以来、祖業の地である

恵比寿のまちづくりに取り組んでいます。

皆さまとともに恵比寿を、もっと魅力的なまちに

育っていくために、まちづくり戦略を策定しました。

●「恵比寿のまち」と「サッポロ不動産開発」の歩み

- 1889年 目黒村三田(現在の恵比寿)にエビスビール醸造所が建設
- 1988年 星和不動産管理株式会社(現在のサッポロ不動産開発)が設立
- 1994年 醸造所の跡地に恵比寿ガーデンプレイスが開業
- 2012年 サッポロ不動産開発株式会社に商号が変更
- 2019年 Sreedシリーズ第1弾となるSreed EBISUが竣工
- 2024年 エビスのブランド体験拠点、YEBISU BREWERY TOKYOが開業



1889



1994



2019



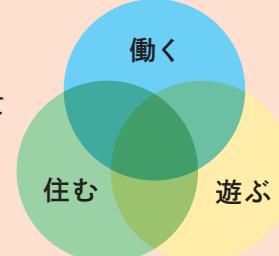
2024



恵比寿を“ひらめきが生まれるまち”へ。 時代と社会の変化をとらえて、育んできたまちの個性を伸ばして、恵比寿のまちづくりを推進します。

恵比寿のまちの特徴

恵比寿のまちは
「働く」「遊ぶ」「住む」まちとして
それぞれに魅力があり、
それらが混在している。



時代と社会の変化

- 時代とともに人々の時間の使い方が変化する中で、まちの中に複数の「働く」「遊ぶ」「住む」空間が混在することの意味が変わりつつある。
- 仕事の合間にこだわりの食事やアートを楽しんだり、日常生活のすぐそばに非日常的な愉しみがある、恵比寿のまちの魅力があらためて見直されている。



恵比寿のまちの目指す姿

「働く」「遊ぶ」「住む」が混在し影響し合うことで、
オンとオフがシームレスにつながり、刺激とゆとりの共存から

「ひらめきが生まれるまち」



ひらめきが生まれるまちとは？

恵比寿が“ひらめきが生まれるまち”になるために、
「働く」「遊ぶ」「住む」まちとして目指していく姿を明らかにしました。



オンとオフがシームレスにつながる
創造的な働き方がひらめきを生み、
新しい価値が創出されるまち

- ・オフィスだけでなく、多様な人が集うサードプレイスが整備され、遊びながら働くような、新しい働き方を実現。
- ・仕事の合間や仕事終わりに愉しめる魅力的なコンテンツにあふれ、「出社したくなる」「エンゲージメントを高める」オフィス立地。
- ・イノベーションのための拠点と、成長を志向する企業およびスタートアップとの連携を促進することで、新しい価値やビジネスが次々に創出。



グルメやアート、音楽など、
とっておきの愉しみがすぐそばにあり、
日常とは異なる刺激を求めて訪れたくなるまち

- ・こだわりのある魅力的な飲食店が点在し、人との出会いを育み、幸せな時間を彩る。
- ・恵比寿ガーデンプレイス内の多彩な文化施設、まちの中に点在するギャラリーなどから、アートや文化を発信。
- ・日常のすぐ隣に非日常的な愉しみがあることで、散策しながら思わぬ発見をしたり、新たなインスピレーションが生まれる。



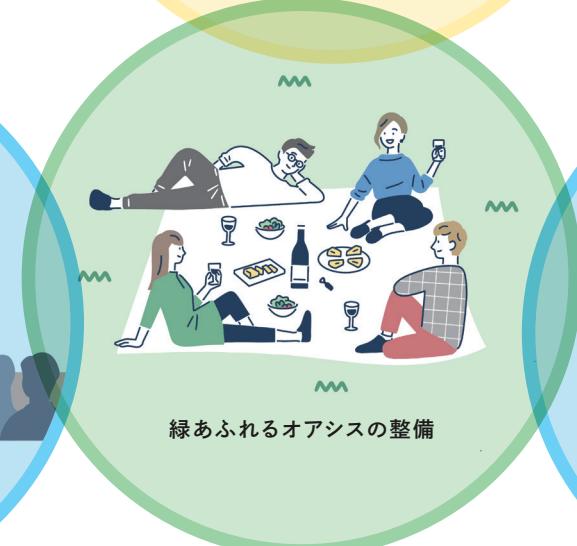
昨日とは異なる新しい刺激を求める
人たちが集まり、成長を実感できるまち

- ・優雅な街並みや上質な暮らしぶりが生み出す落ち着いた雰囲気がゆとりと安心感を与え、人と人との交流を促す。
- ・子どもの教育にも自身の成長にも関心の高い人たちに、上質な学びの場が提供され、大人自身も新しい刺激を得てさらに成長していくことができる。
- ・多様な人、企業がつながり合うことでコミュニティが活性化し、互いに刺激を与え合う。



目指す姿をかたちにする8つのアクション。

恵比寿のまちの中にひらめきが生まれる空間を整備し、
ひらめきにつながるコンテンツや仕組みをつくります。



暮らしを彩る、世界を変える、ひらめきを。

これが、私たちが目指す恵比寿のまちの姿です。

オンとオフがシームレスにつながり、暮らしを彩る小さな愉しみや、
世界を変える革新的なアイデアなど、大小様々なひらめきが
まちのいたるところで生まれています。

サッポロ不動産開発は、このまちを愛し、
ともに育ってきた不動産会社として、
地域の皆さんとともに、
思い描くまちの姿を
かたちにしていきます。

